

受水市町ヒアリングとりまとめ（費用負担のあり方の論点整理）

論点	受水市町の意見等		
	宇治系	木津系	乙訓系
全ての費用の合算算定（建設負担料金の統一）にあたっての留意すべき点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答申で示されている水源費の合算算定について、その方向に進むのはやむを得ない。</li> <li>・合算算定する際は経過を明らかにして、負担増となる水系には何らかの負担軽減措置を講じてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各水系の費用を明確にし受水市町の理解を得ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料金統一については、現行府営水道ビジョンでも示されており、各水系の費用が最も均衡する次期料金算定時が唯一の機会と考える。</li> <li>・早期に料金統一されることを望む。</li> <li>・統一による値上げについては、長期的には負担の平準化が図れるよう努めてほしい。</li> </ul>
建設負担水量の全体の水量調整を行う目的について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の施設能力に応じた水量に調整すべき。</li> <li>・水需要が増える受水市町は暫定的な融通ではなく使用水量に見合った見直しをすべき。</li> <li>・合算算定によって負担増となる水系の負担軽減策として水量調整を活用してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水量調整については、負担の問題につながるの難しいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町の水需要予測と受水割合を踏まえ、再配分すべき。</li> <li>・水量調整については、負担の問題につながるの難しいのではないか。</li> </ul>
建設負担水量の全体の水量調整を行うにあたっての留意すべき点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不公平がないようにするとともに、各受水市町の使用者の理解が得られるような方法が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の水需要は予測が難しいことから、慎重な検討をお願いしたい。</li> <li>・建設負担水量は恒久的なものとせず一定期間で見直しをしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設負担水量と実供給水量との乖離の調整をしてほしい。水量を減少することとなった場合、過去の支払分の精算を求めるともりはない。</li> <li>・府営水道と受水市町全体で情報共有を行い、最善策を検討すべき。</li> </ul>
府営水を今よりも多く受水市町が活用できる仕組みについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定程度の水量を超えた分の使用料金の単価を下げるなどの優遇措置。</li> <li>・府営水の受水割合が一定以上の場合、使用料金単価を下げること。</li> <li>・料金単価の低廉化維持が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受水量を積極的に伸ばすことができるよう超過料金制度の見直し。</li> <li>・価格的なメリットを打ち出すことが必要。</li> <li>・府営水を積極的に利用している市町にとってメリットのある料金。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受水市町以外への受水についても検討。</li> <li>・災害等においても安全な水を安定的に供給できるようにリスクの回避が可能な施設整備。</li> <li>・低廉な額で受水できること。</li> </ul>

※上記は受水市町ヒアリングにおける各市町の主な意見。